

令和 7 年度

笠岡市施策評価報告書

令和 7 年 9 月

笠岡市施策評価委員会

笠岡市の施策評価の実施にあたって、施策評価委員会による評価を行い、その結果を報告書としてとりまとめましたので、報告します。

笠岡市長 栗 尾 典 子 殿

令和 7 年 9 月 2 日

笠岡市施策評価委員会
委員長 小 林 正 和

1 笠岡市の行政評価について

笠岡市では、行政サービスに対する市民ニーズが多様化・高度化する中で、行政が進める政策を実現するための施策について、客観的な指標等をもとに行政評価（施策評価）を実施し、事業効果の検証や進行管理を行うことで、施策の見直しや改善につなげています。

行政評価制度を確実に実施することにより、指標実現に向け職員自らが取り組む業務を常に見直し、自らが課題を見つけ、そして改善に繋げ、行政運営全体の質的な向上が大きく促進されます。そして結果を公表して説明責任を果たすことで行政活動の透明性が高まり、市民の満足度の向上へとつながります。

2 施策評価について

平成19年度から施策評価を導入し、総合計画とも連携した新たな仕組みづくりが進められ、平成23年度から、施策評価委員会を設置して施策評価を実施しています。

平成30年度から始まった第7次笠岡市総合計画では、市民意識調査の満足度・重要度の調査結果を踏まえ、施策ごと、目標ごとに、計画期間中に実現を目指す指標を設定し、PDCAサイクルを確立して適切な進捗管理を行うことにしています。施策評価では、指標を評価の核として、その達成状況から結果にこだわって施策の進捗状況をチェックし、各施策の方針や今後の展開を明確にしていくこととしています。

3 施策評価委員会の設置について

(1) 目的

施策の実施担当部局が行った自己評価に基づき、有識者及び市民の代表者と行政組織の職員により、総合計画の進捗状況を市民の目線で評価していただくことで、施策評価の妥当性・透明性を確保し、信頼性を高めることを目的としています。

(2) 委員構成

施策評価に対する共通認識を深めるため、外部委員と内部委員の混合で構成します。(合計 8 名)

外部委員：第 7 次総合計画審議会の会長・委員，笠岡市公民館協議会の会長（計 4 名）

内部委員：人事課長，商工観光課課長補佐，政策部長，総務部長（計 4 名）

委員名簿は別紙のとおり

4 評価対象施策について

施策評価は，第 7 次笠岡市総合計画の基本計画を構成する 36 施策を評価対象としています。

- 経営戦略： 6 施策
- 活性化戦略： 8 施策
- 未来戦略： 6 施策
- 安定戦略： 12 施策
- 計画推進戦略： 4 施策

5 評価の方法等について

(1) 評価の方法

① 評価の方法

令和 6 年度における取組について，施策実施担当部局が作成した施策評価シート及び関係資料に基づく書面評価と，委員会でのヒアリングを実施しました。

② 評価の観点

施策評価の仕組みをより信頼性の高いものとするため，

- ・指標の達成状況から見た現状分析が妥当であるか
- ・施策を構成する事業の進行状況の現状認識が妥当であるか
- ・これらを踏まえた改善策が適切に方向付けされているか

・総合評価としての認識が妥当であるか
といった視点で評価を行いました。

③委員会の開催結果

日 時	内 容
7月23日(水)	施策評価委員会（1日目） 評価方法及び進め方等の確認 施策評価シートヒアリング及び評価
7月25日(金)	施策評価委員会（2日目） これまでの委員会を踏まえての協議・まとめ

(2)評価の結果

①総評

委員会としては、

A：計画どおり進行している。

B：おおむね計画どおり進行している。

C：計画より一部遅れている。

D：計画より遅れている。

の4段階で評価を行いました。

ヒアリングした施策は15施策中、A評価が2、B評価が10、C評価が3、D評価が0であり、ヒアリングをしなかった施策は書面だけで行い、21施策中、A評価が3、B評価が17、C評価が1、D評価が0となりました。この結果、全36施策中、A評価が5、B評価が27、C評価が4、D評価が0となりました。

（評価結果一覧表は別紙のとおり）

ヒアリング施策の選定については、重要度が高い施策や市長による公約の内重要な施策等を中心に選定をした結果、今回の15施策としました。

今年（令和7年度の施策評価）のヒアリング施策の日程と選定方法は、下記の方法で行いました。

a) ヒアリングの日程

ヒアリングの日程については、今年は1日目で15施策実施し（昨年実施は15施策）、2日目は評価の取りまとめを実施しました。

b) ヒアリング施策の選定方法

この15施策のうち、新たな施策は5つ（1-1 企業誘致の推進と雇用創出，1-4 水産業振興，1-5 観光振興，4-7 身近な上水道，4-8 健全な下水道運営），昨年に引き続いての施策は10施策でした。

そして昨年実施した施策で選ばれなかった施策は5施策（2-5 離島振興，2-7 多様な交流の促進，3-3 生涯学習の推進，3-5 歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用，4-3 医療・救急体制の整備）でした。

また書面審査は昨年と同じ21施策（一昨年26施策）でした。

今年は第7次笠岡市総合計画の7年目と残すところ後1年の評価となっており、施策評価シートは今年も非常に見やすいものになっています。

またヒアリングでの事業説明はポイントを掴んでの発表で、持ち時間5分程度でほとんどの施策は終わりました。またその後の質疑も概ね20分の時間内で終わり、活発な質疑となりました。

各施策に対する意見等は、それぞれの評価シートに記載のとおりです。

今年は、全36施策の内、A評価は5施策、B評価が27施策、C評価は4施策となりました。

昨年は、A評価は5施策、B評価が29施策、C評価は2施策となっており、比較するとA評価は同数、B評価は2つ減少、さらにC評価も2つ増加となり、少し低い評価結果になりました。

A評価は次の5施策です。

i) 「2-8 広域連携の推進」（昨年A）， ii) 「3-4 スポーツの振興」（昨年A），
iii) 「3-5 歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用」（昨年A）， iv)
「4-7 身近な上水道」（昨年A）， v) 「4-8 健全な下水道運営」（昨年A）

昨年A評価の5施策が今回もすべてA評価になり、引き続き頑張っていると考えます。

C評価は次の4施策です。

i)「2-2 定住・住宅対策」(昨年C), ii)「2-4 利用しやすい公共交通システムの構築」(昨年B), iii「4-11 防犯・交通安全の環境づくり」(昨年B), iv「5-2 健全な財政運営」(昨年B)

昨年Bの施策が3つもC評価になっています。また昨年C評価の2施策の内、1つはC評価のまま、もう1つはB評価に上がっています。

また昨年から評価が上がった施策と下がった施策は、以下の通りです。

○評価が上がった施策：1施策（C評価からB評価へは「1-6」）

○評価が下がった施策：3施策（B評価からC評価へは「2-4」,「4-11」,「5-2」）

今回、最終的な協議で各委員の評価が分かれたのは、次の4施策です。

1) から4) までは評価点が1点違えば、評価が変わる施策でした。審議をした結果、1つの施策がB評価からC評価へ見直しとなりました。

『評価点が1点違えば、評価が変わる施策』

1) 2-3「道路ネットワークおよび港湾・漁港の整備」(書面審査)：B評価で変わらず

A評価が2人、B評価が4人で、A評価に近いB評価でした。昨年もA評価に近いB評価で評価が分かれ審査をしたのですが、今回も同じようにB評価のままになった施策です。

良い意見：市民意識調査で満足度が下がっているが、しっかりと事業はしている。

悪い意見：施設整備等は着実にしているが、市民意識調査で満足度が下がっている。

このような意見で、市民意識調査をどう見るかによって変わってきますが、結果は変わらずB評価となりました。

2) 3-1「子ども・子育て環境の整備」(ヒアリング審査)：B評価で変わらず

A評価が2人、B評価が4人で、A評価に近いB評価でした。

良い意見：意識調査で満足度が下がっているが、多くの指標が良かった。

悪い意見：i) 総合指標の3つのうち、1つは達成、1つは未達成、1つは判断できない。ii) 合計特殊出生率の数値は出ていないが、生まれた子ども数は減っている。iii) 産科・婦人科はなくなったが福山市民病院との連携や公立認定こども園での取り組み等は評価できるが、今後の課題は多い。

このような意見がありましたが、結果は変わらずB評価となりました。

3) 4-11「防犯・交通安全の環境づくり」(書面審査)：B評価からC評価へ

B評価が4人、C評価が2人で、C評価に近いB評価でした。

良い意見：担当課だけでの責任ではなく、市民にも責任はある。

悪い意見：指標の多くの達成率が悪化している。

このような意見があった結果、最終的にB評価が2人、C評価が4人となりC評価になりました。

4) 5-3「財源の確保」(ヒアリング審査)：B評価で変わらず

B評価が4人、C評価が2人で、C評価に近いB評価でした。

良い意見：i) 土地売却収入がある年とない年でむらがあるが、総合指標はおおむね達成している。ii) ふるさと納税の寄付金額が着実に伸びている。

悪い意見：自主財源の確保が下がっているように、多くの財源確保がなかなか難しい。

このような意見がありましたが、結果は変わらずB評価となりました。

また自部署の評価についてですが、

A評価をしたのは、2部署「2-8」と「3-4」(去年は1部署「2-8」)

B評価は、34部署(去年は34部署)

C評価は、0部署(去年は1部署「2-2」)

となっていました。

多くの部署が昨年に引き続きB評価に集中していますが、最終的にA評価が5つとなっているため、もっと自信をもって評価をしていただきたいと思います。

す。

なお、この自部署の評価結果も、最終的な評価決定に若干影響があるかと考えますので、A評価（あるいはC評価）をつけるのはなかなか難しいとは思いますが、是非とも良い評価をつけていただきたいと思います。

特に今年はC評価をつけた部署はなかったのですが、去年は1部署がありました。自信を持って上位の評価をつけることができるように、今後も取り組みに頑張っていただきたいと思います。

②改善を望む項目等

【評価シート】

1) シートの作成にあたって

今回使用の施策評価シートは、引き続き見やすいものになってきています。さらに、的確に事業内容等が書かれていることなどは、評価できると考えます。

【評価の方法】

評価にあたっての総括、課題は、下記の項目が挙げられます。

1) 施策評価が若干下がった

A評価が5施策（昨年5施策）、B評価が27施策（昨年29施策）、C評価が4施策（昨年2施策）と、若干下がったことが挙げられます。さらに頑張っていただきたいと思います。

2) 書面評価が多く、直接説明が聞けない

例年、書面評価の施策がやはり多く、直接説明が聞けないため、評価が難しいことが挙げられます。

今年は第7次笠岡市総合計画の7年目の評価で、来年が評価の最後の年になりますが、今回の点を勘案して、来年は是非とも上位の評価になるように、引き続き施策の充実に積極的に取り組んでいただくよう期待します。

令和 7 年度 施策評価委員名簿

役 職	氏 名	団体・役職等	備考
委員長	小 林 正 和	元福山大学 教授 第 7 次笠岡市総合計画審議会 会長	外部委員
	山 田 直 人	笠岡市公民館協議会 会長	外部委員
	玉 置 裕 美	第 7 次笠岡市総合計画審議会 委員	外部委員
副委員長	東 山 琴 子	笠岡市教育委員会委員 第 7 次笠岡市総合計画審議会 委員	外部委員
	村 上 佳 代	笠岡市人事課 課長	
	藤 川 博 敏	笠岡市商工観光課 課長補佐	
オブザーバー	佐 藤 博 之	笠岡市政策部長	
オブザーバー	前 川 英 之	笠岡市総務部長	

施策評価結果

■ 経営戦略

1－1	企業誘致の推進と雇用創出		B		
1－2	農業振興		B		
1－3	商工業振興		B		
1－4	水産業振興		B		
1－5	観光振興		B		
1－6	干拓地農業の活性化		B		

■ 活性化戦略

2－1	魅力的で快適に暮らせる都市形成		B		
2－2	定住・住宅対策			C	
2－3	道路ネットワーク及び港湾・漁港の整備		B		
2－4	利用しやすい公共交通システムの構築			C	
2－5	離島振興		B		
2－6	市民参画・協働の推進		B		
2－7	多様な交流の促進		B		
2－8	広域連携の推進	A			

■ 未来戦略

3－1	子ども・子育て環境の整備		B		
3－2	学校教育の充実		B		
3－3	生涯学習の推進		B		
3－4	スポーツの振興	A			
3－5	歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用	A			
3－6	人権・男女共同参画・平和		B		

■ 安定戦略

4－1	地域福祉の推進		B		
4－2	健康づくり		B		
4－3	医療・救急体制の整備		B		
4－4	障がい者・障がい児福祉の充実		B		
4－5	高齢者福祉・介護の充実		B		
4－6	社会保障		B		
4－7	身近な上水道	A			
4－8	健全な下水道運営	A			
4－9	消防体制の整備		B		
4－10	地域防災の推進		B		
4－11	防犯・交通安全の環境づくり			C	
4－12	廃棄物・環境保全		B		

■ 計画推進戦略

5－1	情報・プロモーションの推進		B		
5－2	健全な財政運営			C	
5－3	財源の確保		B		
5－4	計画管理		B		

計 5 27 4 0

A：計画どおり進行している
 B：おおむね計画どおり進行している
 C：計画より一部遅れている
 D：計画より遅れている